



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金  
〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内  
電話/FAX：03-3945-2415  
E-メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

# ベトナム子ども基金通信

No.52  
2011.2.15



カメラに照れる子どもたちの授業風景(2010.11 ロンアン省ドンタイン小学校)

久しぶりに中国人の友人Lさんと話す機会がありました。Lさんは、「この格差世界を改めることは不可能だと思う。私たちは直接接点のない他人の痛みを感じることができないから」という意味の発言をされました。私は共感もしたのですが、ただ同意するだけでは済まない気がして、聞きました。「では、ベトナムの子どもたちと何の接点もないあなたが、基金発足時から15年も里親を続けてい

るのはなぜですか」と。

複数の人々との会合でしたので、その場ではお返事はいただけませんでした。Lさんをはじめ、現在ベトナム子ども基金の会員と協力者の皆さんは約400人、これまでに支援、協力してくださった方々を加えると800人を超えます。この方々の多くは当初ベトナムの子どもたちとの間に直接の接点はなかったかもしれませんが、なんらかの思いをもって参加されまし

た。その思いとは、誰もの心の中に普通にあるもので、生活上の接点はなくとも、事実を知れば何とかしたいという思いでしょう。さまざまな分野で、このような思いが広がってゆく中で、この格差世界に立ち向かう力も生まれてくるのではないのでしょうか。そう願っています。

こんどう のぼる  
(近藤 昇)

# ベトナム子ども基金の里親の皆さまへ

2011年が元気で幸せでいらっしやることをお祈りいたします。

私は、元青葉奨学生チン・バ・トクと申します。現在、千葉大学工学部建築科2年生です。私は、高校生のとき3年間継続して奨学金を支給していただきました。心から感謝いたします。昨年、初めてベトナムの里子たちの手紙を翻訳する作業を手伝わせていただきました。子どもたちの手紙にすごく感動し、そして改めて里親の皆さまに感謝する気持ちになりました。6、7年前の私は、家が貧しかったり、いろいろな事情で学校に行けない子どもと同じ境遇でした。しかし、幸運なことに皆さまのご支援のおかげで、こうして今の私がいます。翻訳した子どもたちの手紙を読むと、当時のことを思い出し涙が止まりませんでした。

先日、ベトナム子ども基金の事務局がアジア文化会館（ABK）にあることを知り、運営会議とその後に行われる勉強会に参加しました。当日、私は会議に遅れて入室しましたが、親切に歓迎してくださってとて

もうれしかったです。あまり日本語の上手ではない私ですが、運営委員の皆さんの熱心な意見や討論を聞いて感動しました。いつもベトナムの子どもたちのことを考えてくださっていることに心から深く感謝いたします。会議の後の勉強会でドンズー留学生の先輩がスピーチしましたが、社会人として日本の企業で働いている先輩の体験談はいろいろ勉強になりました。この先輩も元青葉奨学生です。元青葉奨学生の先輩たちはすごくて、自分をもっと頑張らなければならぬと思っています。

会が終わってから、運営委員の皆さまと一緒に飲み会に行き、ごちそうになりました。そのとき、さらに皆さまの親切さを感じることができました。介護の仕事をしている方は、よく気がつき私たちの皿を頻繁に替えてくださいました。飲食店でアルバイトをしている私は

とても勉強になりました。また、毎月、この会議に出席するために遠く離れた沖縄からいらっしやっている委員の方もいました。そのほかにも忙しい仕事の合間にベトナム子ども基金の仕事をやったださっている方々がたくさんいらっしやると思います。心からお礼申し上げます。

ご存じのように、ベトナムには皆さまからのご支援を必要としている貧しい子どもたちがたくさんいます。私も自分のできることを頑張りたいと思います。今年もどうぞよろしく願います。

チン バトク  
(Trinh Ba Tuoc)



## 青葉奨学会研修報告

### ベトナムでの活動を通じて、子ども基金に見出す可能性

#### ベトナムへの思い

貴重な大学2年生の夏休みである去年の7月と8月を利用して、私は5週間ベトナム、ホーチミンの青葉奨学会、またドンズー日本語学校で活動させていただきました。今振り返れば、

2度の旅行からのベトナムでの長期滞在への憧れ、途上国の貧困について学ぶ開発学への漠然とした興味、そしてさらに教育の可能性を深く知りたいという気持ちが、私を子ども基金と結びつけたと思います。私の通う国際基督教大学（以下ICU）で

は、これまで学んできたことを実践に生かし、またそこから学びを得るというサービスラーニングというプログラムを実施しています。私はこのプログラムを通じて、入学当初からぜひベトナムで活動したいと思いましたが、ICUの用意するプロ

グラムにはベトナムはありませんでした。どうしてもベトナムへの気持ちを諦めきれなかった私は、インターネットで検索し、ベトナム子ども基金を見つけました。早速代表者である近藤さんに事情を説明し、快く受け入れていただき、現地とも連絡を取った後、5週間の滞在が決定しました。

### ドンズーと青葉でのお手伝い

現地では、ドンズー日本語学校と青葉奨学会の両方のお仕事をお手伝いさせていただきました。ドンズー日本語学校は、青葉奨学会も設立されたグエン・ドク・ホウエ先生によって建てられ、一般のクラスだけでなく、日本への留学を視野に入れたコースもあり、これまでに日本にも多くの留学生を送っています。私は、一般クラス、留学生クラスのアシスタント、日本の文化紹介、また1度留学生の日帰り旅行にも同行しました。

子ども基金との関連で、こちらの方がメインであった青葉奨学会では、手紙の翻訳手直しと奨学金送り先の視察に行かせていただきました。手紙翻訳の手直しとは、会員の方と奨学金を受け取っている子どもたちのやりとりの一環です。ベトナム語から日本語へベトナム人の先生が翻訳した手紙の表現の間違いや分かりにくい箇所を訂正すること、また日本語からベトナム語へ翻訳する際に、あまりにも達筆でベトナム人にとって読みにくい日本語を、読みやすい日本語へ書き直す作業でした。青葉奨学会を支援しているのは、子ども基金だけではなく、ほかにも北陸と沖縄にあるNPOとともに青葉奨学会へお金を送っ

ていますが、この手紙翻訳の仕事は、日本で留学生などに頼みながら翻訳をしている子ども基金のためのものではなく、翻訳技術を持つ人がいない北陸のNPOのためのものでした。

### 地方の学校を訪問

また奨学金の送り先の視察では、合計で3カ所を訪問しました。7月24日にホーチミン市から200kmほど離れた、カンボジアとの国境に近いビンフック省、8月19日と20日にホーチミンから70kmで、車で約2時間のロンアン省の2つの小学校をそれぞれ日帰りで行かせていただきました。最初に訪問したビンフック省には、子ども基金運営委員の黒羽さんとベトナム人の先生と、黒羽さんの支援している里子の通うティエンフンB小学校、また子ども基金の会員の方の支援で建設されたチュヴァンアン中学校の2カ所を見学しました。ロンアン省のロントゥアン小学校とドンタイン小学校は、子ども基金の会員の方の支援によって建てられた学校で、ロントゥアン小学校には学生数は320人、ドンタイン小学校には分校を含め全部で753人の学生がいました。この2つの小学校では、朝と午後のクラスに分け、学年ごとに少ない教室を使い回しながら、授業をして



ロンアン省の小学校にて

いました。ここでは、短い時間ではありましたが休み時間に子どもたちと触れ合う機会が与えられた点、子どもたちの授業風景を見せていただけた点において、大変貴重な経験でした。

### 地域格差を目の当たりに

ビンフック省、ロンアン省ともに、現在経済的に発展しているベトナムを象徴しているホーチミンとは対照的に、インフラストラクチャーの普及すらままならない様子であったことに驚きました。高層ビルや、舗装された道路を通るたくさんの車やバイク、先進国同様のおしゃれな喫茶店や巨大ショッピングモールを目にするホーチミンと、同じ国とは思えないほどの格差が見受けられました。ロンアン



ビンフック省の中学校の前の様子

省の小学校の近くでは、田んぼが広がり、家すらもあまり見られませんでした。自分の体の2倍ほどの大きさの自転車で登校する小学生の姿が印象的であるとともに、小学校数の不足という問題が頭に浮かんできました。またロンアン省よりさらに遠いビンフック省では、立ち並ぶ家々はみな隙間のある木の板1枚で作られていて、とても人が住むような環境とは思えず、大変な衝撃を受けました。

## 子ども基金の活動の 意味するもの

今回5週間の活動を通じて、ベトナムについて、日本について、子ども基金について、また私自身について多くのことを理解し、考えさせられました。その中でも一番大きな確信となっているのが、「子ども基金の活動は意味のあるもので、これからも継続していかねばならない」ということです。今回初めてベトナムの農村部を訪れ、今まで何度も授業で耳にしてきた、「貧困」「格差」というものを自分の目で見ました。彼らの生活が彼らにとって幸せかどうかは私には判断できませんが、彼らに教育の機会を届けることの重要性を身を持って感じました。教育は、子どもたち一人一人の可能性を広げ、希望を創り出すものです。私自身、今大学に通い、将来さまざまなことに挑戦したいという希望にあふれた生活を送ることができているのは、今まで受けてきた教育のたまものであることは間違いありません。また帰国後、何人かの元青葉奨学生で、現在日本に住んでいる人たちに会いま

した。彼らが現在日本で学び、仕事をし、将来ベトナムのよりよい発展に貢献していくという希望を持てるのは、青葉奨学金があったからではないでしょうか。

### “同時代意識”を持って

私は帰国後、ぜひ活動を続けたいと思い、近藤さんをお願いして、現在子ども基金のお手伝いをさせていただいています。月1度の勉強会は、私にとってさまざまな意見を聞き、自分の視野を広げる大変有意義な時間です。これまで勉強会の中で、最も印象的で今後私たちが目指していくべきものと思ったのは、「これからよりよいベトナムの発展のために“同時代意識”を持つ。また、一緒に両国の子どもたちを育てていくという考えを持つ」というものです。これはベトナム人、日本人関係なく、一緒によりよい世界を作っていくという考え方です。子ども基金はこれまでも多くの子どもたちに、奨学金という形で希望を与えてきました。この実績を生かしながら、現在急速に発展するベトナムで経済的格差から教育を受けることの

できない子どもたちに、希望を届けていく役割を子ども基金は担っています。さらに子ども基金は、その活動を通じて、両国の人たちの“同時代意識”を高めていく役割も担っているのではないのでしょうか。私は現在、ベトナム人留学生とICUの学生と一緒に“同時代意識”を持って、今後も子ども基金の活動を続けていくため、また拡大させるための活動ができたと思っています。5週間の滞在は、私自身の将来に大きな影響を与えたという点において、また私とベトナムとの繋がりを確かなものにしてくれたという点で大変貴重なものでした。私を受け入れてくださった子ども基金の皆さまに感謝して、報告を終わりにさせていただきます。

くりはる はるき  
(栗原 陽紀)



留学生との日帰り旅行にて

## <ダナンのストリートチルドレンの今>

第69回ピースボート地球一周クルーズに乗船しダナンに寄港したときの様子を報告します。36名のオプションツアー参加者で、職業訓練施設とそこに通うストリートチルドレンが共同で暮らす家を訪れてきました。

### 職業訓練施設へ

2010年4月23日早朝、ダナン

のティエンサ港でツアーバスに乗り込み、そこから20分ほどの職業訓練施設へ。入口に並んだ子どもたちの歓迎を受けながら、私たちは敷地内に入り、まずは現所長マンさんと、元所長で毎回のツアーガイド役でもあるアンさんから説明を聞きました。ニューヨーク在住アメリカ人の5万ドルの寄付がきっかけ

で1991年に設立されたこの施設は、「ダナン・ストリートチルドレンプログラム」という名称のNGOが管理を行っています。土地は政府からもらったもので、その後は主に外国の団体からの支援で成り立っているそう。ベトナムでは政府による子ども支援対策がないため、NGOの役割が大きいのだとか。ダナ

ンにはヨーロッパのNGOが設立している「SOS」という職業訓練施設もあるけれど、ストリートチルドレンのサポートをしているのはここだけ。当初は市内の子どもが自分から施設に入りたいと訪ねてきたので、家族の状況を判断した上で受け入れるかどうかを決定。そのうちこちらから農村部などにも出かけ、支援が必要な子どもを探して連れてくるようになったそうです。

### 日本への感謝

NHKのテレビ放送をきっかけとして、日本および世界中から支援が届くようになり、おかげで現在活動の中心となっているストリートチルドレンプログラムを発足できました。2000年からは山口大学より毎年30人分の奨学金ももらっています。日本には感謝しています、とアンさん。

### クラスを見学

教えているのは、裁縫（6カ月）、刺しゅう（9カ月）、パソコンのタイピング（3カ月）の3種類で、朝と午後の2つのクラスに分かれており、各クラスの定員は20人。空きが出たら新しい生徒を入れる形とのこと。初めに裁縫コースの教室を見学。裁縫道具はカナダからの4000ドルの寄付で購入したそうです。今日は祝日なので人数が少ないと聞いていたけれど、ク



ラスの半数は出席しているようで、1人1台ずつミシンに向かい練習に励んでいました。男の子も数人。シンチャオとあいさつすると笑顔を返してくれる子や、見知らぬ外国人の私たちに緊張してうつむいたまま作業に没頭する子などさまざまです。通っている生徒は14～18歳という説明でしたが、次にのぞいたタイピングクラスには、英語の話せる21歳の女の子がいました。刺しゅうコースの教室では、土産物店でよく見る小物にあしらわれているような、色とりどりの草花やアオザイ姿の女性を、女の子たちが手縫いで布地に施す練習をしていました。

### 生活できれば満足

マンさんやアンさんによると、子どもたちは路上で新聞売りや靴磨きをするより技術を覚える方がよく、外国に売るおもちゃなどを作ったりもしているそう。ここで楽しく過ごし卒業後仕事が持てるよう指導しているので、生活できる程度の収入は得られるようになるといいます。優秀な子どもは大学まで支援、18歳になると結婚が認められるので新婚カップルには新居支援も。また施設外の子どもにも奨学金や文房具を与えているそうです。メンタル面のケアは特にしていないけれど、深刻な場合のみ病院に連れて行くとのこと。参加者から、生活できる程度の収入というのは、一般的なベトナム人の収入と比べて十分な金額であるのかという質問が出ると、「ベトナムは農業中心の国なので、生活がゆったりしています。生活さえできれば、収入による満足度は変わりません」という答えでした。日

本との大きな違いを感じ、考えさせられた言葉でしたが、ホーチミンなどにいると、ベトナムセレブかと思える人や、よりハイレベルな生活を目指し頑張っている人たちが出てきているのも確かです。ホーチミン、ハノイに次いでダナンが3大都市のひとつだと聞きましたが、ダナンはまだまだ田舎のようですね。そういえばダナン近辺の中部がベトナムでも最も貧しい地域だと、子ども基金の勉強会で聞いたことがあります。ベトナム国内の地域格差をも実感する一方、生活できる収入があればそれで満足だと思える感覚を、先進国に住む者の失ったものねだりで、ある意味うらやましいとも感じ、幸せとは何か、少し分からなくなりました。

### 支援物資を渡す

日本から船に積んで運んできた文房具などを手渡すと、子どもたちは大喜びでした。私はピースボートのボランティアスタッフとして数年、支援物資を集めるセクションに関わった経験があります。日本国内で何百件もの電話依頼をして、いろいろな国にさまざまな支援物資を集めながら、いつかは自分の手で最後まで届けたい、どんな人たちが受け取っているのか、その相手に会ってみたいと思っていました。今回の旅で6年越しのその目標が達成でき、受け取り慣れしているだろうと想像していた子どもたちが意外にはしゃいでいるのを見て、これまでの頑張りが報われた気がしました。支援する際に相手からの感謝を期待するのは間違っていると常々考えているので、押しつけがましい気持ちは持たないよ

うにしていますが、子どもたちの素直な笑顔は私にとってはご褒美のようでした。

### ストリートチルドレンの家へ

次に少し離れた所にある、ストリートチルドレンが共同で暮らす家に向かいました。全部で5軒あるそうで、私たちは3つのグループに分かれて行動することに。1軒目で最初のグループがバスから降ります。ここは男の子だけの家だそうです。そこからまた少し離れている2軒目と3軒目は同じ敷地に並んでいて、私が訪問したのは2軒目でした。家というよりは2階建て



の細長いアパートのような感じで、そこに住む子どもたちが私たちの手を引っ張って、中を案内してくれました。1階には共同の台所と居間とトイレがあり、2階部分が子どもたちの部屋になっています。部屋はいくつかに分かれていて、その広さに応じ4~8人くらいで使えるように、2段ベッドと収納用の棚が置かれていました。2段ベッドの上下どちらかのみが個人スペースというわけで、これは机も兼ねており、勉強道具や教科書なども各ベッドに置いてありました。家1軒につき30人の子どもと、父親役と母親役の大人がいるそうです。空きが出たときだけ新しい子どもを入れるけれど、親がいない4歳までの子

どもの場合は無条件で受け入れられているとのこと。子どもたちは普通の学校にも通っており、職業訓練施設へは、大きい子は自転車で行き、小さい子は車で連れて行くようです。

### お母さんのベトナム家庭料理

建物横のオープンエアのスペースで3つの丸テーブルを囲み、子どもたちと昼食。ここの家のお母さん役の女性が作ってくれたベトナム料理はとてもおいしかったです。各テーブルにお姉さんの存在の女の子がいて、小さい子たちの世話を焼きつつ、ホストさながら私たちを接待してくれたのには感心しました。私のテーブルにいたのはニャットちゃんという19歳の女の子で、料理を取り分けたり、鍋で野菜や魚介を煮たり、会話が途切れないよう話しかけてくるなど、心を配ってくれました。そして気を遣ってくれるのは小さい子どもたちも同じで、みんなの分を取ってしまうのではと遠慮がちな私たちの小皿に、どんどん料理をのせてくれます。お客をもてなそうという気持ちがしっかりあるようでした。ニャットちゃんは英語が話せて、看護師になるのが夢だと教えてくれました。「またここに来る？」と聞くニャットちゃんに、みんなとりあえずイエスと答えていたけれど、来られる確率は低いだらうと思うと、少しせつなくなりました。

### 大家族の一員である子どもたち

小さなブランコがありたくさんの洗濯物が干してある、建物と同様に細長い庭の中で、私たちはボール遊びをしたり折り紙を折ったり、お互いに歌を披露

したりしました。ここに来て最初に子どもたちのベッドを見たとき、狭くてかわいそうだと感じたのですが、3時間近くを過ごすうちに、この家は逆に、ちゃんと愛情を得られる場所なのではないかと思えてきました。職業訓練施設でもそうだったのですが、子どもたちが明るくてとてもストリートチルドレンには見えないのです。32人で1世帯の大家族のような生活は、案外楽しいのではないのでしょうか。ストリートチルドレンといっても、親がいない子、親がいても路上生活を送っている子、経済的事情で親と離れていなければならない子どもなど、背景はさまざまなようですが、ここに来る以前の暮らしの方がよほどひどかったという子も少なくないのかもしれませんが、メンタル面のケアは特にしていないという話でしたが、それは子どもたちに愛のある生活を与え将来的な自立をサポートする取り組みを続けているというこのNGOのやり方が、子どもたちの心を癒す役割を十分に果たしているからなのでしょう。

### また会えるかな

アンさんは最後に言いました。「海や山などで観光もできたのに、子どもたちに会いに来ることを選んでくれてありがとう。ここで見たもの、そして子どもたちのことを、ずっと忘れないでください」。船旅の途上だった私たちには与えられたベトナムでの滞在時間は、ほんの8時間しかなかったのです。ダナンが初めてだった私は観光にも興味はありましたが、子どもたちと交流する方が大切に思えました。お礼を言いたかったのは

こちらの方です。たった1日足らずで見聞きし感じたことは、そのすべてではないかもしれませんが、深く心に残りました。地球一周はそう何度もできないけれど、ベトナムなら近いということに後になってから気づ

き、ここをもう一度訪ねるのも可能なのではないかと今は考えています。

里親基金会員

きたがわ みかこ  
(北川美香子)



## ベトナムの学生の1日

昨年ベトナムスタディーツアーの交流会に参加した里子、元里子のある日の1日をレポートしてもらいました

### 私の1日

Chu Hong Hanh (チュー・ホン・ハイン)  
THPT Chu Van An (チュー・ヴァン・アン 高等学校)

#### <朝>

私はいつも1日を5時30分頃から始める。歯磨き洗顔等を終えた後は家族の分の朝食を作る。私の家族は合わせて3人だけだが、とてもにぎやかで和む。

6時15分に家を出てバスに乗る。学校は7時15分から始まって正午まで。学校の授業はとても面白いしためになる。休み時間はみんなと話したりふざけ合ったりする(少しだけ)。

#### <昼>

12時に家に帰るためバス停に向かう。

だいたい12時30分頃に家に着く。両親は大抵先に昼食をとって仕事に備える。私はテレビを観ながら食べる。その後は母の家事の手伝いなどを少しする。

#### <夕>

塾に通わなければならない。塾の授業は午後2時から夕方4時まで続く。その後は母と一緒に夕飯の支度をする。私の父は既に定年だが、家族のためにアルバイトをしている。夕食は家族一緒に、6時30分あたりにテレビを観て話したりしながら食べる。

#### <晩>

お風呂などに入った後は勉強をする。12年生(高校3年生)は宿題が多く、しかも難しいので11時30分まで頑張る。その後は寝る。勉強ばかりで少し疲れがたまる日だが楽しいこともあった。

#### <好きなこと>

音楽を聴くこと、両親や友達と会話すること、テレビを観ること、読書が好き。学校の委員会活動なども楽しくてためになるので好き。

#### <将来の夢>

現在の私の夢は志望校、志望学部に受かること。もし機会があれば留学もしたいし、いい仕事に就いて両親を安心させたい。



## 私の1日

**Le Anh Nguyet (レー・アイン・グエット)**  
*Dai Hoc Khoa Hoc Xa Hoi va Nhan Van*  
(社会科学&人文科学大学)

### <朝>

日常習慣から始める。大学に行き生徒会の活動などに参加する。友達と社会や勉強について会話を交わしたり、図書室で本を借りる。

### <昼>

食堂で昼食(トウモロコシかパン)、図書室で休憩、音楽を聴いたり本を読んだりする。

### <夕>

大学の授業に出るか姉を訪れ、いとこの面倒を見る。週末は社会福祉団体とともに子ども村や病院を訪れる。

### <晩>

夕食、休憩、同居の友達と会話を楽しむ。勉強、散歩、みんながバスケットやバレーボールをしているのを観る。週に2日は家庭教師のアルバイト。

### <好きなこと>

会話、いとことおやつを食べること、読書、夜に自転車をこいでハノイを眺めること。タイピンの平穏な空気が一番好き。

### <将来の夢>

心理学の教諭、教えながら研究もする。  
不利な境遇にいる子どもたちのよい日々を作り上げること。

## 私の1日

**Tran Thi Then (ツァン・ティ・テン)**  
*Su Pham*大学(教育大学)

### <朝>

朝5時30分起床。まず少し運動をして体力を高めなければ。今日もほかの人と同じく5時間の緊張と疲労の授業だけど、学校に通うのはとても楽しいことだと思う。

朝食後、学校に行きクラスメートと楽しく勉強。みんなとてもいい人で、私もよくみんなを手伝ったりするけど、誰かを助けられることもとても楽しい。

### <昼>

今日は食堂でお漬物が出たけど、すっごくおいしい! お母さんの手料理みたい。お母さんと家族に会いたいなあ。もっと勉強頑張りなきゃ。お母さんは苦勞してるんだらうなあ。

### <夕>

夕方は化学の授業で実験をした。やっぱり実験があつての化学だと思うんだよね。もっと知りたいなあって思える。勉強が終わったら図書室へ行って本でも読もうかな。

### <晩>

テレビを見て気分をスッキリしておこう。じゃなきゃ頭が回らない。ちょっと勉強したら明日早く起きるためにすぐ寝なきゃ。

### <好きなこと>

読書、自転車をこいでハノイを回ること、家庭教師のアルバイト。

### <将来の夢>

化学の教諭。



## ベトナムからの手紙

### 夢を実現して、 社会に貢献したい ゲン・ヴァン・ハイ

初めに、里親さまとご家族の皆さまの健康お祈りします。

1年の流れはとても速いです。今日、また私は里親さまに手紙を書きます。これは私にとって、1年に1度の習慣といってもいい、好きな行事です。確かこの手紙は8通目の手紙です。つまりこの8年間里親さまからの支援を受けているわけです。この手紙も里親さまに対する私のその長年の感謝の気持ちです。

青葉奨学会を通して、里親さまの支援いただいて、私は本当に幸せで、ありがたいと思っています。この奨学金は私には、洪水のときにその流れに溺れ死にそうになったときの浮き袋のようなものです。私の家庭の事情は里親さまもお分かりになっていると思います。わが家には家がなく、川の上の小型木造船に住んでいます。周りには何百もの小型木造船があります。父は毎日朝早く起き、フェリー乗り場へ渡し船をこいで行き、フェリーに乗り遅れたお客さんを乗せ、川を渡します。大部分の

お客さんは野菜、果物を水上市場で買って村の人々に売るお客さんです。父の稼いだお金で家族4人を養うのはとても大変だと思っています。

昨年度は、里親さまの支援のおかげで私は学費を払い、ノート、教科書などの勉強道具を買うことができました。私にとってこの奨学金はこれからの新しい学年にとっても必要なものです。これからも支援をよろしくお願いします。里親さま、青葉奨学会の皆さまを裏切らないように、そして自分の夢を実現できるように頑張っています。いいお医者さんになり、社会に自分の力で少しでも貢献できるようにしたいと思います。

この国、社会には困難を乗り越えながら、頑張っている人がいます。私が見習わなければならない人々です。皆それぞれの家庭の事情、人生を抱えながら、生きる意志を持っています。彼らは私を将来へと導いてくれます。彼らにも私のように支援が受けられるように祈っています。

最後に、里親さまとご家族の皆さまのご健康と、お仕事がうまくいくようにお祈りしています。里親さま、青葉奨学会の皆さまに感謝の言葉をお送りします。

### 努力で夢を実現します ゲン・チャップ・ドウオン

初めに、里親さまとご家族の健康をお祈りします。

里親さま、私は喜びをもってクイン・コイ高校に入りました。これは勉強、高校に入るための受験勉強の苦勞の末の結果

だと思います。高校に入るという自分の目標に無事到達できました。私は高校1年A6組で、数学、文学、外国語を専攻するクラスです。高校に入って、小学校に入ったときに似た戸惑いを感じました。私はとても憶病な性格なのです。クラスは50名いますが45名が女性で、男性が5名しかいません。私は初め女性が大多数のクラスで勉強するのがちょっと怖かったですが、現在はもう慣れてきました。

学校が家から5、6kmと離れているので、朝は6時に家を出て、昼の12時に帰ります。大変ですが自分の夢を実現できるように頑張っています。「夢を実現するには才能は2%だけ、残りの98%が努力です」と里親さまの教えてくださった言葉をいつも覚えています。

私は第3期の奨学金をもらいました。おかげで学費を払って、安心して勉強ができます。タムさんが2つの大学に受かったと聞きましたが、里親さまはご存じでしょうか。タイビン医科大学と貿易大学です。私もタムさんのように頑張ります。里親さまは私を支援するために一生懸命に働いていますが、健康にも十分に気をつけてください。健康はとても大事なことです。私はもう高校1年生で、大きくなり、考え方も前よりしっかりしてきたと思います。自分の努力で夢を実現できると信じています。

里親さまとご家族の皆さまの幸福をお祈りします。



## 優秀な医師になるため 頑張ります

チン・ティ・タイン・タム

初めに、お姉さんにご家族の皆さまの健康と幸福をお祈りします。長い間お姉さんに手紙を書かなくてすみません。

私は長い間の受験勉強を経て、大学の入試を受けました。その試験の結果をお姉さんに報告します。貿易大学に24点で、タイビン医学大学に21.25点で合格しました。どちらの大学に入るか迷いましたが、タイビン医学大学を選びました。タイビン医科大学で勉強するのなら、下宿せずに自宅から通学できますので、費用を大いに節約できると思います。それに、医師になれば、人々の病気を治すこともできます。母は私の考えに賛成してくれましたが、お姉さんはいかがですか。

入学して、2週間近くになりました。毎日自転車です学校に通っています。学校は家から3km離れていますが、自転車での往復は大変ではありません。私のクラスは48名います。教室にはラオス人とカンボジア人が7名います。クラスは楽しいです。医学の勉強は6年かかり、かなり長いし、勉強するプログラムも難しいそうです。新しい環境に入り、戸惑いと不安がいつば

いですが私は精一杯頑張ります。

夏休みは受験勉強のため、ライムを売りに行くことができませんでした。大学に受かった後、うちで近所の子どもたちに勉強を教えていました。小学1年生から5年生まで、各クラスは数名です。生徒たちはまだ小さいので、いたずらと遊びが好きですが、素直な生徒もいます。日曜日以外、1日に2回毎日教えました。教えるのは大変ですが、とても楽しいです。特に、生徒の進歩を見るのはうれしいことです。教えることから入るお金を授業料と教科書代に使いました。夏休みが終わって、現在は2名の生徒にだけ教えています。残り時間は自分の勉強に集中しています。お金を稼ぐことはいいことですが、そのために自分の勉強をほうっちはおけませんからね。

私の母は最近体力が少し弱っています。この間は2週間入院しました。私と妹は交代で母の世話をしました。幸い私の大学は病院の向かいなので、授業が終わってから病院に行って母のそばにいました。夜は病院で寝ました。現在、母の病気はよくなり、うちで薬を飲んでいきます。お姉さんも安心してくださ

妹は今年高校2年生で、真面目に勉強しています。ときどき難しい問題の手助けをしています。

そうそうお姉さん、奨学金をもらいに行ったとき、チャップ・ドゥオンさんに会いました。チャップ・ドゥオンさんは前より少し背も高くなり、また少し太ったようです。私たちは楽しくおしゃべりしました。私はドゥオンさんが自分の夢を実現し、社会の役に立つ人間になることを望んでいます。

私は、お姉さんは自分の仕事が忙しいのに、貴重な時間を割いて私たちに関心を持ってくれていることに対して、とても感謝しています。お姉さんの家族はお元気ですか。お仕事が忙しくても、健康には気をつけてください。私の母からもお姉さんによろしくとのこと。私はお姉さんになんとお礼を言えはいいのか分かりません。お姉さんがこれからも引き続いて支援してくださると、私と、私の家族はとてもうれしいのですが。優秀な医師になるためにこれからも頑張ります。お姉さんの手紙をお待ちしています。

### 【編集部注】

ドゥオン君とタムさんの里親は同一の人で、スタディーツアーで2人一緒に里親と面会しており、住まいも同じ省で交流があります。

## ●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(順不同・敬称略) (「新」は新規会員)

2010年8月

2010年9月

2010年10月

2010年11月

2010年12月

2011年1月

2011年春の木運動

**\*お願い：通信送付の際の封筒宛名に、里親会員と一般会員になられている方には、会員番号と最終入金日が記入されています。年会費の納入をお忘れなきよう、お願いします。**

**◆ベトナム子ども基金会員募集！**（友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします！）

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただけます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談の上決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座にお願いいたします。**NPO化で口座番号が変わりました**

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ)：トクヒ)ベトナムコドモキキン

里親基金用(一般、賛助基金を含む)

郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865

黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)

郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873

**◆事務局だより**

梅花の候、皆さまいかがお過ごしでしょうか。通信52号を最後までご覧いただきありがとうございます。

1月15日(土)午後2時より、ABK(アジア文化会館)で、1月事務局運営会議行い、勉強会では長尾眞文国際基督教大学(以下ICU)教授よりベトナムでの経験のお話を伺いました。通常、運営会議では、事務局の運営方針や活動内容、会員の方からの要望などを話し合います。勉強会では、ベトナム人留学生、元留学生を案内人として自身の経験に基づいたお話をしていただき、参加者と歓談します。そのほか、昨年は当基金を通じてドンズー日本語学校、青葉奨学会事務局で研修を行った、ICU在学中の栗原さんの報告会(今号掲載)も行いました。

なお、運営会議、勉強会はどなたでもご参加いただけます。今後の勉強会の予定を同封いたしますのでご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております。ご参加いただける方は会場準備の都合がありますので、お手数ですが事前に事務局までメール、電話およびファクスにてご連絡をお願いいたします。

現在、事務局では皆さまに里子の履歴票を発送しております。今年度も経済的に厳しい境遇の学生に奨学金を支給してまいります。昨年11月末に、ベトナム人留学生、元留学生、運営委員、協力会員の方々にお手伝いいただき最初の履歴票翻訳会を行いました。履歴票にベトナムの地図、里子への手紙の書き方を添えてありますので、こちらもご参照ください。

昨年度、里子が高校3年生だった方には奨学金支給終了の手紙を送らせていただきます。青葉奨学会では原則、奨学金の支給を高校卒業までとしておりますが、青葉奨学会側が成績優秀で、素行が優れていると判断した場合、または、里子から手紙で大学進学により支給をお願いし、里親が継続を希望する場合、大学進学後も引き続き奨学金を継続支給することができます。里子から皆さまへ、直接、奨学金継続の要望がある場合は、子ども基金事務局から青葉奨学会へ再支給の手続きを要請しますので、事務局までご連絡をお願いいたします。そのほか、ご不明な点がおありの際はご遠慮なく事務局までお問い合わせ、ご相談ください。

また、支給終了後も青葉奨学会を通じて手紙のやりとりを続けることができますので、皆さまのベトナムの子どもたちとの交流をぜひ続けていただきたいと思います。

末筆ながら、2011年もベトナム子ども基金並びに、事務局をよろしくお願い申し上げます。今年も事務局の活動を充実させ、皆さまの当基金へのご支援に応えられるようスタッフ一同取り組んでまいります。

手紙や通信の発送、運営会議、事務局運営などの活動はボランティアの方々によって支えられております。この場を借りて、昨年ご協力いただいた皆さまにお礼申し上げますとともに、新たにお手伝いいただける方を募集しております。当基金の活動にご興味をお持ちの皆さま、ぜひご参加ください。(坂本)



事務局です(狭い!)

## ベトナムの教育

学制：小学校5年(義務教育)、中学校4年、高校3年、  
大学4～6年

教育年度：9月に始まり、翌年の6月中旬頃に終了  
幼児教育：保育園(3カ月～3歳)、幼稚園(3カ月～5歳)

初等教育(日本の小学校に当たる)  
就学率95%(2006年)  
6歳～11歳(5学年)を対象とした義務教育  
全国に1万5千校、児童数は704万人(2006年)  
大部分の学校が2部制(教室が足りないため、  
午前と午後で生徒を入れ替える)  
授業料 無料～60万ドン/年  
週休2日(木・日曜日が休み)

前期中等教育(日本の中学校に当たる)  
就学率79%(2006年)  
11歳～15歳(4学年)が対象

全国で9,700校、622万人(2006年)  
日曜日休み

後期中等教育(日本の高校)就学率41%  
15歳～18歳(3学年)が対象

高等教育 大学数403校 公立326 私立77  
学生数180万人(2009年)  
短大3年、大学学士課程4年(工学部5年、医学部6年)  
大学院 修士課程3年、博士課程3年  
国家大学(首相直轄校)、国立大学、国立(私立)大学に分かれる

以上、外務省「諸外国の学校情報」、ベトナム統計局資料等を参考としました。訂正、詳細情報等をご存じの方はお知らせください。

## 本のご案内

**バッチリ話せるベトナム語 CD付 三修社 2,520円** Lai Thi Phuong Nhung 監修

元青葉奨学生で一橋大学大学院に留学中のライ・ティ・フーン・ニョンさんがベトナム語の学習書を出版されました。アジア文化会館ベトナム語講師をはじめ、豊富な日本人向けベトナム語教育経験を基にした、わかりやすい学習書です。「このテキストは、ベトナム語の基礎文法を紹介するのはもちろん、実用的なシーン別ですぐに使える表現と語彙(ごい)をも紹介するので、いろいろな目的に使えます。例えば、ベトナム旅行に行く前にベトナム語を勉強しておきたい方々、ベトナムとビジネスをする方々、ベトナム語を長く勉強したい方々などです」(ニョンさんから)ベトナム語を学びたい方はぜひご購入を!